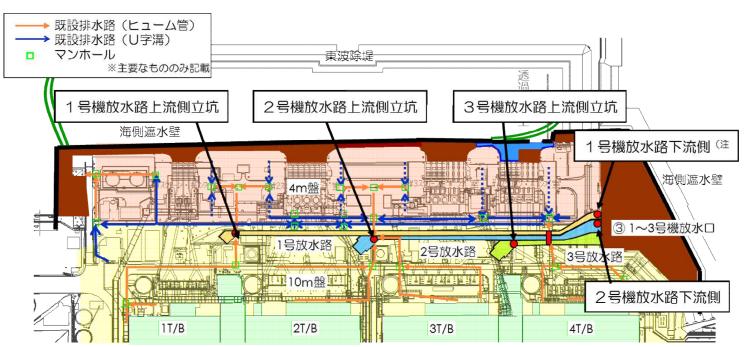
発電所内のモニタリング状況等について(1~3号機放水路の調査状況について)

2015年5月28日 東京電力株式会社



無断複製·転載禁止 東京電力株式会社

1~3号機放水路及びサンプリング位置図(平面図)



注:ゼオライト土のう設置(2月)以降、放水口から下流側立坑へのアクセス不可のため、放水口上部より採水

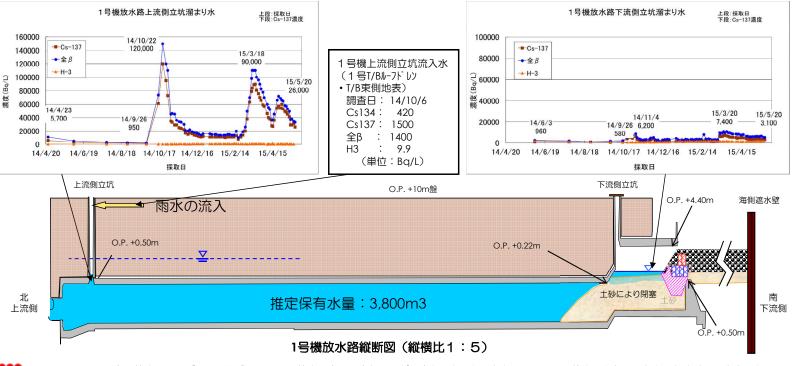
東京電力

2

1

1号機放水路サンプリング結果

- 1 号機放水路上流側立坑溜まり水のセシウム137濃度が、2月末より再度上昇。3/12には、下流側立坑溜まり水の 濃度も上昇。3/18をピークに、濃度は下降したものの、4月中旬に再度上昇が見られ、現在は下降中。
- 2月下旬より降雨が多くなっており、台風時と同様、降雨により放水路に何らかの流れ込みがあったものと思われるが、原因は特定できていない。
- ■放水路出口(放水口)へのゼオライトの設置は完了しており、放水路溜まり水の本格浄化に向け、準備工事を実施中。

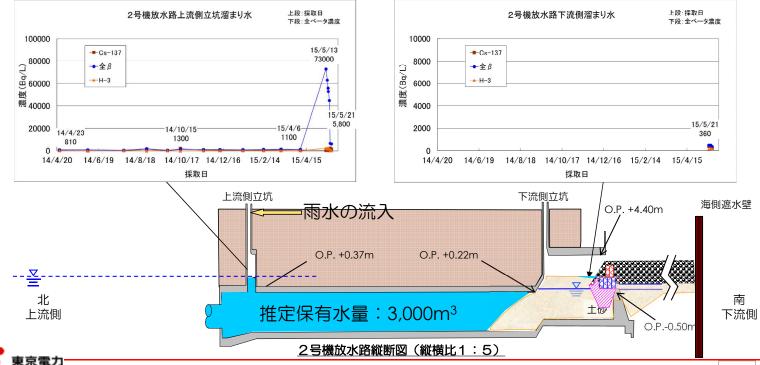


注:放水口へのゼオライト設置により、放水口内への立ち入りができなくなったことから、3/20より放水口上部開口部から採水することとした

無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

2号機放水路サンプリング結果

- ■2号機放水路上流側立坑の溜まり水の全ベータ濃度が、5/13の定例(1回/月)サンプリングで上昇。
- ■5/15よりモニタリングを強化中。
- ■5/19の降雨後のサンプリングで、溜まり水の全ベータ濃度が大幅に低下。 (45,000→6,400Bq/L)。その後も低下傾向。
- ■5/16以降に実施した、放水路下流側(放水口)のサンプリングでは、全ベータ濃度は低濃度。



3

- ■放水路の開口部である放水口は、堆積した土砂により閉塞しており、放水口出口には地盤改良の施工及びゼオライト土のうを設置済み。
- ■また、放水口出口は海側遮水壁の内側であり、埋め立て も終了していることから、溜まり水が直接外洋に流出す ることは無い。
- ■さらに、前回測定の4月6日以降の港湾内外の全ベータ 放射能濃度には、特に影響はみられていない。



無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

5

2号機放水路に関する追加調査の結果 - 下流側のサンプリングー

- ■追加調査として、2号機放水路の下流側の状況を確認。
- ■昨年は、2号機の下流側立坑~放水口はすべて土砂で埋まっており、溜まり水は確認できなかったが、2本の放水口のうち東側で溜まり水を確認。
- ■5/16及び降雨後の5/19に、溜まり水のサンプリングを実施したが、全ベータ、トリチウムともに低濃度であり、特に放水路上流側で濃度が上昇した影響は見られていない。
- ■当面、モニタリング強化を継続する。

表 2号機放水路下流側(放水口)溜まり水分析結果

採取日時	Cs-134	Cs-137	全β	H-3
1木以口时	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)
2015/5/16 12:10	88	⁻ 400	510	150
2015/5/19 11:00	99	390	500	170
2015/5/20 10:50	81	250	370	180
2015/5/21 11:00	74	260	360	160

放水口より撮影







東京電力

2号機放水路に関する追加調査の結果 - 下層のサンプリング-

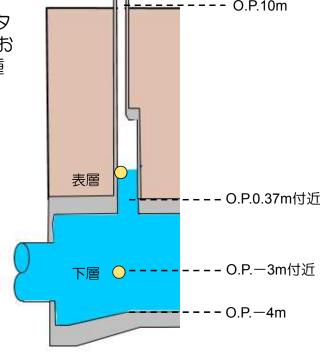
■2号機放水路上流側立坑における、溜まり水濃度上昇の原因調査の一環として、同立坑 における下層の採水を実施した。

■過去に実施した1号機と同様、下層の塩分濃度が高い傾向があるが、表層と下層の濃度

の差は小さかった。

■また、当日朝に約36mmの降雨があったが、全ベータ 濃度は前日の45,000Bq/Lから1/7程度に低下してお り、今回の降雨時には、セシウム以外に新たなβ核種 の流れ込みは無かったものと考えられる。

2号機放水路上流側立坑(表層)					
採取日	5月19日				
рН	9.0				
塩素濃度(ppm)	80				
Cs-134(Bq/L)	580				
Cs-137(Bq/L)	2,100				
全β(Bq/L)	6,400				
トリチウム (Bq/L)	180				
2号機放水路上流側立坑(下層)					
採取日	5月19日				
рН	8.3				
塩素濃度(ppm)	540				
Cs-134(Bq/L)	360				
Cs-137(Bq/L)	1,300				
全β(Bq/L)	4,800				
トリチウム (Ba/L)	130				



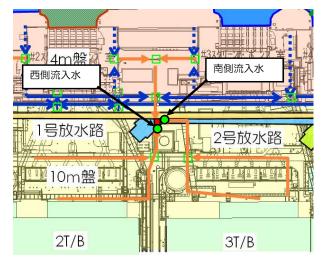


無断複製·転載禁止 東京電力株式会社

7

2号機放水路に関する追加調査の結果 - 流入水のサンプリングー

- ■2号機放水路上流側立坑における、溜まり水濃度上昇の原因調査の一環として、同立坑における流入水のサンプリングを実施。
- ■降雨の無かった5/15は、西側からの流入水(2号機T/Bルーフドレン、T/B東側地表水)のみであったが流入量はわずかであり、濃度も低かった。
- ■5/19早朝の降雨後に流入水のサンプリングを 行ったが、南側流入水(3号機T/Bルーフドレン、T/B東側地表水)は、昨年と同様セシウム 濃度が高かった。
- ■また、西側流入水についても、降雨の無かった 5/15よりは濃度が上昇していた。
- ■ただし、いずれも全ベータ濃度がセシウム濃度 に比べて特別高い傾向は見られず、以前にサン プリングした降雨時の流入水と同様、含まれる 核種のほとんどがセシウムと考えられる。



採取地点図

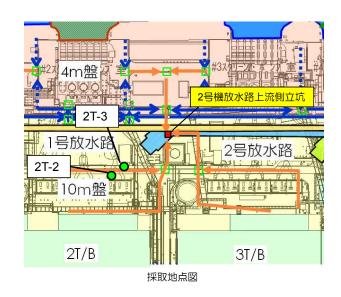
表 流入水の水質分析結果

採取地点	採取日時	Cs-134	Cs-137	全β	H-3	備考
		(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)	
2号機放水路上流側西側流入水	2015/5/15 9:55	15	57	85	150	降雨無し
2号機放水路上流側西側流入水	2015/5/19 10:10	140	640	940	ND(110)	降雨後
2号機放水路上流側南側流入水	2015/5/19 10:00	1 500	5 700	7 700	ND(110)	降雨後

2号機放水路に関する追加調査の結果 - 一周辺の地下水観測孔--

- ■2号機放水路上流側立坑が位置する、2号機~3号機タービン建屋海側の10m 盤では、これまでのところ観測孔やサブドレンに、今回のたまり水濃度の上 昇を引き起こすような濃度の全ベータは確認されていない。
- ■今回の濃度上昇を受けて、2号機タービン建屋東側の地下水観測孔、No.2T-2、2T-3においてサンプリングを実施。
- ■いずれも従来と変わらない低濃度であった。

地下水観測孔2T-2、2T-3のサンプリング結果					
	2T-2				
採取日	5月15日	5月15日			
Cs-134(Bq/L)	ND(<13)	ND(<13)			
Cs-137(Bq/L)	ND(<23)	ND(<22)			
全β(Bq/L)	250	430			
トリチウム(Bq/L)	400	460			



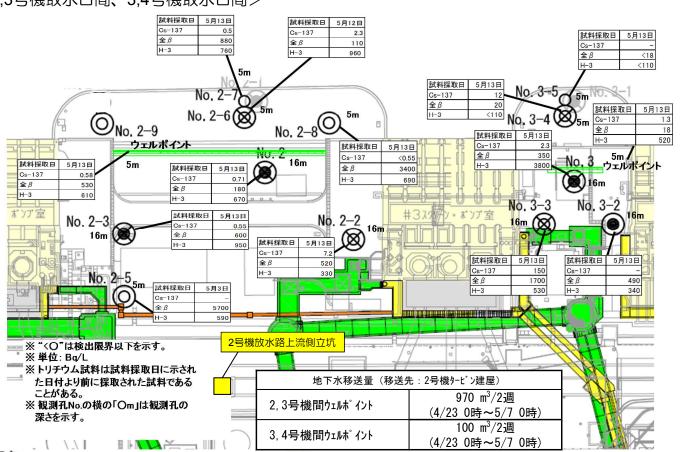


無断複製·転載禁止 東京電力株式会社

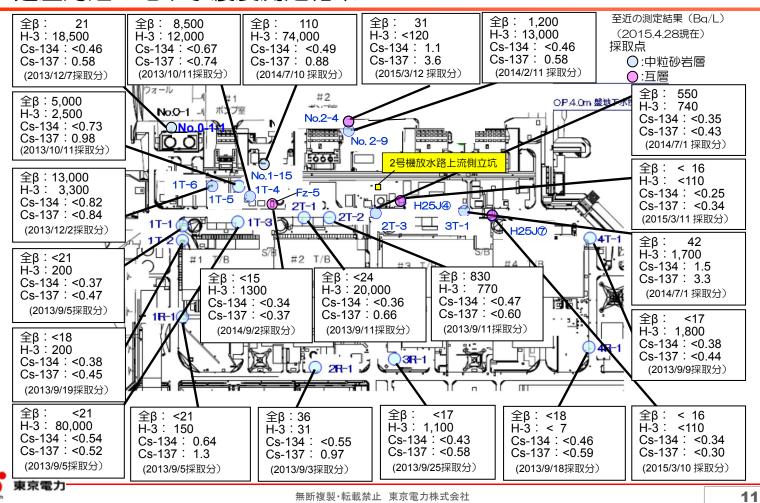
9

3号機タービン建屋東側の地下水濃度

<2.3号機取水□間、3.4号機取水□間>



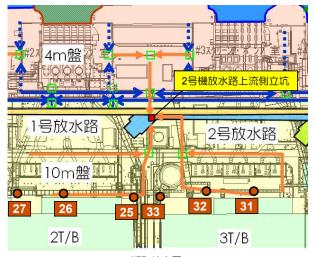
建屋周辺の地下水濃度測定結果



周辺のサブドレンの水質の状況

ピット	セシウム 134	セシウム 137	全β	トリチウ ム	採取日
25	38	145	247	480	H26 10/22
26	37	145	272	ND(120)	H26 10/22
27	50	144	880	ND(120)	H26 10/22
31	199	588	1014	290	H26 10/22
32	ND(9.4)	6	ND(17)	120	H26 10/22
33	13	43	65	386	H26 10/22

●「ND」は検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。



採取地点図

1. 2号機放水路のモニタリング強化

2号機放水路上流側立坑で検出した濃度上昇の影響をモニタリングするため、 当面の間1号機放水路と同様、週3回2号機放水路上流側立坑及び2号機放水口 にて採水、分析を実施する。(γ、全ベータ、トリチウム)

2. 流入源の調査

放水路に接続している配管等の流入可能性のある経路について、サンプリング等を行い流入源の調査を継続する。



無断複製·転載禁止 東京電力株式会社

13

3号機放水路サンプリング結果

- ■3号機放水路上流側立坑溜まり水のセシウム濃度は、1,000~2,000Bg/L程度で推移。
- ■2号機同様、降雨時の流入により一時的にセシウム濃度が上昇するものの、拡散や希釈、 沈降等により濃度が低下しているものと考えられる。
- ■放水口へのゼオライトの設置は完了。
- ■引き続きモニタリングを継続する。

